

＼尾張北部医療圏初、愛知県内4施設目／

【整形外科】人工膝・股関節全置換の手術支援ロボットを導入

—今まで以上に安全で正確な手術を行うことが可能になりました—

江南厚生病院（病院長：河野 彰夫）では、令和6年8月より手術支援ロボット「Mako（メイコー）システム」を導入し、人工膝関節・人工股関節の全置換手術を開始しました。同システムは愛知県内で4施設目、尾張北部医療圏では初めての導入となります。

ロボティックアーム手術支援システム「Mako（メイコー）」の特長

- 日本で初めて承認を受けた整形外科領域における手術支援システム。2019年に保険適用。
- 【患者個々の綿密な術前計画】

術前のCT検査で、人工関節のサイズ・骨を削る深さ・角度などを0.25ミリ、0.1度単位で詳細な調整を実施。

- 【ロボティックアームによる正確な手術と術中の合併症防止】

手術中に医師が骨の切除や人工関節の設置位置をモニターで確認しながらロボティックアームを操作、計画外の部位に差し掛かると自動的に停止し、骨の削りすぎやじん帯・血管などの周辺組織の損傷を防止する仕組みとなっている。



膝関節用ロボティックアーム（左）
カメラスタンド（中央）
ガイダンスモジュール（右）



実際の手術の様子



導入で期待できること

人工関節の設置精度の向上により、摩擦による人工関節の減りや傷み・劣化の防止と耐久性向上、関節の可動域の向上が期待できます。また、人工股関節全置換術では術後脱臼率の低減といったメリットが期待でき、スポーツにも参加できます。

対象手術：人工膝関節全置換術、人工股関節全置換術、人工膝関節部分置換術

整形外科 整形外科代表部長 川崎 雅史



変形性股関節症や変形性膝関節症などで悩む患者さんが、人工関節全置換の手術後、健康的な生活を送っていただけるよう、今後はロボットアームを用いた安心・安全な手術を積極的に行ってまいります。

年々増加する人工膝関節・人工股関節置換術と江南厚生病院の手術実績

歩く・立つ・座るなどの動作で膝や股関節の痛みが生じる方は、関節が変形している場合があります。この変形した関節を人工のものに置き換える手術が、人工膝関節置換術・人工股関節置換術です。厚生労働省の公開データ^{*1}によると、人工膝関節置換術・人工股関節置換術は、2022年度に164,000件以上の手術が実施されており、江南厚生病院では年間300件以上の手術を実施しています。手術支援システムを活用することで、患者さんの痛みの軽減や早期回復にも一定の効果が期待されています。

※1…日本整形外科学会症例レジストリー 年次報告書

JA 愛知厚生連 江南厚生病院 <概要>

開設：平成20年5月1日

(愛北病院・昭和病院の統合)

病床数：630床 診療科：36科

職員数：1,261名(令和6年5月1日現在)

指定：地域周産期母子医療センター・救命救急センター・
地域中核災害拠点病院・愛知県がん診療拠点病院・地域医療支援病院



尾張北部医療圏の北部地域の基幹病院としての役割を担い、岐阜県南部地域を含めた広い地域の方に高度急性期・急性期医療を提供しています。



本件に関する問合せ

江南厚生病院(住所：愛知県江南市高屋町大松原137番地) 企画課：池田(いけだ)・藤原(ふじはら)

TEL：0587-51-3333(代表) FAX：0587-51-3300

E-mail：kikaku@konan.jaaikosei.or.jp WEBサイト：<https://konankosei.jp/>

取材日は調整できます。整形外科代表部長の川崎雅史が取材対応いたします。

※本件は8月27日開催のJAグループ愛知記者会へリリース、愛知県政記者クラブへリリースを行います。